

2015 年度 聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター 年次報告書

はじめに

聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科の教員メンバーが中心となって、聖学院大学総合研究所人間福祉学研究センターのなかに、「聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター」が発足したのは、2007年のことである。

大学を卒業して、福祉の現場等で働く卒業生を勇気づけ、また、現場の知恵を大学に還元して、よりよい福祉教育を大学で実践・研究できること、あわせて、卒業生に限らず、地元・近県の福祉関連従事者にも還元して、地域貢献ができればとの目標があったように思っている。

2008年3月1日には、発足会が、当時、埼京線北与野駅前にあった、「新都心ビジネス交流プラザ聖学院大学教室」を拠点に、「聖学院大学スーパービジョンセンター発足会」が開催された。あれから、8年余が過ぎた。大学と、大学をとりまく環境も、僅か8年の間に大きく変わった。しかし、当初からの目標・目的は変わっていないであろう。

2015年度の特記事項としては、

1. グループスーパービジョンのスーパーバイザーとして、長年、ご指導下さった柏木昭先生（聖学院大学名誉教授、聖学院大学総合研究所名誉教授）が2015年度をもって、ひとたび退かれ、田村綾子先生が後任のスーパーバイザーを担当されることとなった。
2. いままで、グループスーパービジョンを受講された方に、修了証（受講証明書）を発行することとなった。（受講者のキャリア・アップの助けになればと願っている。）

などである。

なお、2015年度は、10月10日（土）に聖学院大学4号館会議室において、第16回ピア・スーパービジョンが、2016年2月13日（土）には、同じく第17回ピア・スーパービジョンが開催された。第16回の記録は、総合研究所ニュースレター Vol.25, No.2, 2015年、19-20頁に報告されている。

運営委員として今年度も、卒業生の山田裕太氏、深瀬久博氏、川田法子氏、秀村智香氏、片岡 優氏をはじめ、新たなメンバーも加わった。今後のさらなる活躍に期待したいと思う。

また、創立以来、総合研究所事務局研究支援課のスタッフの皆様には、多くの業務の中で、SVCの運営に、多くのご支援をいただいていることを感謝申し上げたい。

2016年4月

聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター長

中村 磐男

I. 事業概要

1) 目的

社会福祉の現場では、日々、さまざまな戸惑い、失敗、ゆれに直面することは少なくない。その結果、不安を抱えて仕事を続けることになり、孤立する人、未来を描けない人も少なくない。これらの壁を乗り越え、燃え尽きない（バーンアウトしない）ための方法として、「スーパービジョン」がある。スーパービジョンとは、スーパーバイザー（熟練したソーシャルワーカー*）が、スーパーバイジー（経験の浅いソーシャルワーカー）に対し、その人の能力が最大限に引き出され、活用されるように支援するものである。具体的には、困難状況や事例に対する関わり方、不安や戸惑いに耳を傾け、受容し、有効なアドバイスをするものである。

2) 実施体制

<プログラム>

- 個別スーパービジョン
スーパーバイザーによる個別のスーパービジョン（原則毎月1回程度）
- グループ・スーパービジョン
スーパーバイザーによるグループ・スーパービジョン（毎月1回）
- 研修交流会 ピア・スーパービジョン（年2回開催）
主にスーパービジョンに関する実践理論の勉強や経験交流の場を提供する研修会
- スーパーバイザー支援制度
すでにスーパービジョンを行っている人々をサポートする制度

<場所>

聖学院大学 他

<担当者>

- | | |
|-------|---|
| 柏木 昭 | 聖学院大学名誉教授、聖学院大学総合研究所名誉教授、社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長、人間福祉スーパービジョンセンター顧問 |
| 助川征雄 | 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科客員教授（元学科長） |
| 相川章子 | 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授 |
| 田村綾子 | 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科准教授、公益社団法人日本精神保健福祉士協会副会長・研修センター長・認定スーパーバイザー |
| 大野和男 | NPO法人精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の会びあ三浦理事長、社団法人日本精神保健福祉士協会相談役、元聖学院大学非常勤講師 |
| 行實志都子 | 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学科准教授、元聖学院大学非常勤講師 |
| 廣江 仁 | 社会福祉法人養和会 障害福祉サービス事業所あんず・あぷりこ施設長 |

※2015年度現在

*熟練したスーパーバイザーとは、(社)日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザーとして精神保健福祉士国家資格を有する者などを言う。

3) 報告書様式

聖学院総合研究所事務室宛 (FAX 048-781-0421)

聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター

実 施 報 告 書

年 月 日

スーパーバイザー氏名			
スーパーバイザー氏名		(GSV 記入)	人
実施スーパービジョン	<input type="checkbox"/> 個別スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> グループ・スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> スーパービジョン支援制度		
実施年月日	年 月 日 ()		
実施時間	AM PM	時 分 ~	時 分
実施場所	① 聖学院大学 (教室名)		
	②		
	③		
	④ その他 ()		
事務局への要望			
質問			
その他			
相談料	金額 (支払方法)	会計担当	事務担当

II. 事業実績

1) スーパービジョンセンター委員会

第1回委員会：5月20日（水）11：30～12：50

場 所：3号館3204室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子

欠席者：相川章子

事務局：木下元、山本悦子（記録）

第2回委員会：7月8日（水）11：30～12：30

場 所：3号館3204室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子

欠席者：田村綾子

事務局：木下元、辻本修、山本悦子、小野逸穂（記録）

第3回委員会：10月14日（水）11：30～12：30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂（記録）

第4回委員会：1月27日（水）12：10～13：00

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子

欠席者：相川章子

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂（記録）

第5回委員会：2月25日（木）11：00～12：00

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子

欠席者：田村綾子

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂（記録）

2) スーパービジョン事業

(1) グループ・スーパービジョン

<柏木 昭>

●聖学院大学 4 号館4405教室 原則毎月第 2 金曜日 18:30 ~ 20:30

開催日		報告者 所属 ほか
第 1 回	2015年 6 月12日	オリエンテーション
第 2 回	2015年 7 月10日	F 介護老人保健施設、精神保健福祉士
第 3 回	2015年 8 月14日	F 介護支援専門員
第 4 回	2015年 9 月11日	F 病院、精神保健福祉士
第 5 回	2015年10月 9 日	M 社会福祉法人児童発達支援学園、施設長
第 6 回	2015年11月13日	F 障害者総合支援法生活施設
第 7 回	2015年12月11日	F 介護老人保健施設
第 8 回	2016年 1 月 8 日	F 準総合病院
第 9 回	2016年 2 月12日	F 生活支援センター
第10回	2016年 3 月11日	F 医療法人自立訓練施設

実施回数：10回 人数：9名

スーパービジョンセンター委員会（2/25/2016）において、来期から本グループスーパービジョンは大学田村綾子教授に引き継ぐことを、助川征雄教授を通して依頼することの決定がなされている。

<田村綾子>

場 所：さいたま市

実施回数：2回

人 数：基礎編（半日）48名

応用編（1日）22名

場 所：聖学院新館（駒込）

実 施：2日間

人 数：実践報告、事例演習 3名

総 括

●さいたま市社協スーパーバイザー養成基礎研修

2013年度から数えて3回目となる、さいたま市社会福祉協議会主催の「スーパーバイザー養成研修基礎講座」を実施した。内容はこれまで同様2日間コースとし、初日は講義（スーパービジョン概論）とグループ討議を交えての半日間、2日目は初回の受講から約2か月間職場でスーパービジョンを試行し、そのレポートを作成して講義（スーパービジョンの課題）と事例演習を1日かけて行うプログラムである。初日のみの参加も可能とした。

受講者はさいたま市内の高齢者施設・障害児者施設・保育施設等に勤務する職員で、社会福祉士や精神保健福祉士、保育士などの資格所持者も一部いたものの、多くは無資格であった。受講動機は、職場から管理業務を期待されるため、後輩や部下の指導に役立てたいというものが多かった。早期離職を防ぎ、やりがいや自信をもって働く者を支えたいという思いが表れていた。

会を重ねるごとに受講者数は増加しており、初日が48名、職場でのスーパービジョンを実施して2日目に臨んだ受講者は22名で、いずれも前年に比べ約2倍であった。2日目を修了した者からは「1回目

と2回目の間に実際にSVをしてみたので、実施して初めてわかることがあった」「一人一人の職員をより良く理解するようにしていきたい」といった感想が多く、座学のみではなく実践に基づく体験的な研修の有効性を実感できた。

受講者のアンケート結果は、職場で活かせる内容であったという回答が約9割で、全体として好評であった。OJT (on the job training) とスーパービジョンの混同は例年みられることで、今回の研修でも管理職等の立場で部下の教育訓練・指導を担う職員が多かったため、その方法論の習得を目的として受講している者も多かったようである。しかし、部下の専門職者としての力量を伸ばすための丁寧なかかわりであるスーパービジョンの意義を学ぶことで、後輩や部下のサポートにおいて新たな発想をもって向き合うことができるという可能性を見出し、受講者がエンパワメントされる研修になったと思われる。

今回の参加者は年代としても中堅と思える方が多く、忙しい福祉現場の第一線で日々奮闘しながら、人事管理や職員教育の重責も担うことへの負担感を抱えている様子がグループ討議における発言からうかがえた。自身がスーパービジョンを受けたい、という声も例年に比べて多かった印象である。こうしたところからは、福祉の利用者が増大し支援ニーズも拡大する一方で、マンパワー不足や無資格及び知識・技術の乏しい職員が、必ずしも十分とはいえない待遇のなかで現場を支えている実態が垣間見えた。こうした状況下でも福祉従事者一人ひとりが自尊心を向上させ、力量を高めることでより良い支援の実践に、本研修が側面的に寄与できればと考える。

さいたま市社会福祉協議会では本研修を今後も継続する予定とのことであり、来年度に向けてはプログラムを一部改編し、より多くの方に実践編へ臨んでもらえるように内容のさらなる充実を図りたい。

●四国更生保護委員会

2013年度より、四国更生保護委員会からの委託事業として行っている「上席社会復帰調整官のためのスーパーバイザー養成研修」で、今回は3回目となる。毎年、人事異動があるため今回の参加者は3回目の者2名と、他地域から異動してきた者1名の3名であった。

社会復帰調整官は、2003年に大阪で起きた池田小学校事件を一つのきっかけとして心神喪失者等医療観察法(略称)が制定され、その中で重要な役割を担う職業として創設された職務である。この職業に就く者の多くは精神保健福祉士としての現場実践経験を有しているが、今回の参加者は2名が精神保健福祉士、1名は基礎資格が看護師であった。

研修内容は、予め各研修生が個別スーパービジョンを他保護観察所の新任調整官に対して3回ずつ行い、そのレポートを持参して行うスタイルである。ただし、今回は他所から異動してきた看護師資格の調整官については、スーパービジョン概論を受講できていないため、受講者間での伝達講習を経てから、個別スーパービジョンが実施された。研修は1泊2日で行い、それぞれに取り組んだスーパービジョンの実践報告と、それに基づく事例演習を行った。

今年度は、スーパーバイザーにあたる者たちが全員、昨年度も個別スーパービジョンを経験していることから、スーパーバイザーに助けられながら実施した者もあり、スーパービジョンにおける相互主体性が発揮された内容にもなっていた。次第に、四国地区での保護観察所内でのスーパービジョンが根付いてきていることを感じる報告であった。特に受講3年目になる2名は、いずれもこれまでの学びを活かして、スーパーバイザーのありのままを受け入れ等身大での最善を尽くそうする姿勢が随所にみられ、レポートからは、これまで以上に深い自己洞察がなされていた。経年で研修を実施してきた成果の手応えを受講者とともに喜ぶことができた。初受講者については看護師経験の中ではOJTの経験しか有さず、今回初のスーパービジョン実践となり、肩に力が入った実践となっていたものの、実践報告をもとに当日行ったグループスーパービジョンにおいて、スーパービジョンにおけるスーパーバイザーの姿勢や着

眼点を体験的に理解できたようであった。

また、例年述べられる所感ではあるが、自職場でのOJTの有用性の再認識と、スーパービジョンは職場外で実施する方が取り組みやすいという感想が今年も上がっていた。予算の確保や業務内への位置づけの整理などの課題もあるが、今後研修という形を離れても、本研修のエッセンスを活用して、少人数職場における専門性の高い実践をささえるために、四国4県の保護観察所が連携して支え合う仕組みが定着することを期待したい。

なお、本研修の事業受託契約にあたっては、学長支援室（現秘書課）の寺島氏にも多大なご尽力をいただいたほか、今年度は受講者が本学に来校して開催したため、駒込新館会議室の利用手配等で総研及び駒込の職員各位にもご配慮いただき、円滑に実施できたことを感謝したい。

(2) スーパーバイザー支援制度グループ版

<柏木 昭>

●横浜市戸塚区 通称「柏木サロン」 原則第4火曜日

開催日		報告者 所属 ほか	
第1回	2015年12月22日	F	地域活動支援センター
第2回	2016年1月26日	M	精神科病院
第3回	2016年2月23日	F	精神科診療所
第4回	2016年3月22日	F	市役所支援課 福祉士事務所長

実施回数：4回 人数：4名

参加者はそれぞれ現場でスーパービジョンを実施しているが、今期はスーパービジョンそのものに焦点を当てるのではなく、精神科ソーシャルワーカーとして担当した事例について検討がなされた。来年度から2名増員の予定である。

(3) 個別スーパービジョン

<助川征雄>

実施回数：延べ17回

場所：助川研究室

人数：2名

<相川章子>

実施回数：延べ3回

場所：相川研究室

人数：1名

<田村綾子>

実施回数：延べ3回

場所：田村研究室

人数：2名

<大野和男>

実施回数：延べ6回

場所：4号館4405教室

人数：1名

(4) スーパーバイザー支援制度

<相川章子>

実施回数：4回

場所：相川研究室

人数：1名

<田村綾子>

実施回数：3回

場所：田村研究室

人数：1名

(5) ピア・スーパービジョン

①第16回ピア・スーパービジョン

日時：2015年10月10日（土）10：00～15：30

場所：聖学院大学4号館4階第一・第二会議室

人数：18名（関係者含む総人数）

内容：第一部 講演「スーパービジョンのすすめ」

講師 柏木 昭（聖学院大学名誉教授・聖学院大学総合研究所名誉教授・人間福祉スーパービジョンセンター顧問）

鼎談 柏木 昭・深瀬久博098W094・川田法子104W093

SWnet主催 ランチ交流会（参加の場合：実費1,000円程度）

第二部 ピア・スーパービジョン

導入 助川征雄（聖学院大学人間福祉学科教授・人間福祉スーパービジョンセンターSVR）

グループディスカッション

総合司会 山田裕太（SWnet 98W）

講演/鼎談司会 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授

②第17回ピア・スーパービジョン

日時：2016年2月13日（土）10：00～15：30

場所：聖学院大学4号館第一・第二会議室

人数：21名（関係者含む総人数）

内容：第一部 講演「人生の岐路——20代、30代および40代を顧みて」

発題者 中村磐男（聖学院大学こども心理学科特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長）

パネルディスカッション

パネラー 柏木 昭（聖学院大学名誉教授 人間福祉スーパービジョンセンター顧問）・中村磐男（発題者）・秀村智香（102W094）・片岡優（106W026）

コーディネーター 相川章子（聖学院大学人間福祉学科教授）

SWnet主催 ランチ交流会（参加の場合：実費1,000円程度）

第二部 ピア・スーパービジョン

導入 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授

グループディスカッション

総合司会 山田裕太（SWnet 98W）

ピア・スーパービジョンプログラムは、次ページ以降参照。

【第16回プログラム】

聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催
人間福祉学科・SWnet(聖学院ウェルフェアネット卒業生を中心とする福祉のネットワーク)共催

2015年10月10日(土) 10:00(受付9:30)～15:30 終了予定
聖学院大学4号館4階 第一・第二会議室

第16回 ピア・スーパービジョン



プログラム



総合司会 山田裕太 SWnet

講演/鼎談司会 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授

10:00～10:10

挨拶

中村啓男 聖学院大学こども心理学科特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長
深瀬久博 SWnet

10:10～11:10

講演

「スーパービジョンのすすめ」
講師 柏木 昭 聖学院大学名誉教授・聖学院大学総合研究所名誉教授
人間福祉スーパービジョンセンター顧問

11:10～11:15

休憩

11:15～12:00

鼎談

柏木 昭・深瀬久博 098W094・川田法子 104W093

12:00～13:15

SWnet 主催ランチ交流会(参加の場合:実費1,000円程度)

13:15～15:20

ピア・スーパービジョン

13:15～13:30

導入 助川征雄

聖学院大学人間福祉学科教授・人間福祉スーパービジョンセンターSVR

13:30～13:45

参加者自己紹介

13:45～14:45

グループ・ディスカッション

14:45～15:00

グループ発表(全体共有)

15:00～15:20

コメントとまとめ 柏木 昭

15:20～15:30

閉会

牛津信忠 聖学院大学人間福祉学部長

♪ 懇親会

プログラム終了後、SWnetの企画による懇親会があります。参加歓迎・会費別途
懇親会会場:「北海道」大宮店(大宮駅東口徒歩1分) TEL03-6161-5234

♪ 学生バス

当日は無料で学生バスをご利用いただけます。時刻表は本学HPをご確認ください。



聖学院大学総合研究所
人間福祉スーパービジョンセンター主催
人間福祉学科・SWnet(聖学院ウェルフェアネット
—卒業生を中心とする福祉のネットワーク)共催

第17回 ピア・スーパービジョン

2016年2月13日(土) 10:00(受付9:30)～15:30 終了予定
聖学院大学4号館4階 第一・第二会議室

プログラム

総合司会 山田裕太 SWnet

10:00～10:10 挨拶 牛津信忠 聖学院大学人間福祉学部長
SWnet 深瀬久博 (098W094)

10:10～11:10 講演会
発題「人生の岐路——20代、30代および40代を顧みて」
発題者 中村 啓男 (なかむら いわお)
聖学院大学こども心理学科特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長

11:10～11:15 休憩

11:15～12:00 パネルディスカッション
パネラー 柏木 昭 (聖学院大学名誉教授 人間福祉スーパービジョンセンター顧問)
中村啓男 (発題者)・秀村智香 (102W094)・片岡優 (106W026)
コーディネーター 相川章子 (聖学院大学人間福祉学科教授)

12:00～13:15 SWnet 主催 ランチ交流会 (参加の場合:実費 1,000円程度)

13:15～15:20 ピア・スーパービジョン
13:15～13:30 導入 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授
13:30～14:45 グループ・ディスカッション
14:45～15:00 グループ発表(全体共有)
15:00～15:20 まとめ

15:20～15:30 閉会

♪ 懇親会
プログラム終了後、SWnetの企画による懇親会があります。参加歓迎・会費別途
懇親会会場:「北海道」大宮店(大宮駅東口徒歩1分) TEL03-6161-5234

♪ 学生バス
無料で学生バスをご利用いただけます。時刻表は掲示や本学HPでご確認ください。

【第18回開催予定ほか】



保健・社会福祉現場や一般企業で対人援助を行っている人たちの「語り合い・振り返り・支え合いの場」、それがピア・スーパービジョンです。同じ悩みや課題を持つ者同士が語り合い、クライアントとのかかわりを振り返り、日々の業務を見直します。職場を越えたつながりを作り、情報交換をしましょう。

日 時：2017年2月4日(土) 予定

場 所：聖学院大学

対 象：保健・社会福祉施設、企業で対人援助の仕事をしている方(学生、院生可)

参加費：無 料

聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター 主催

人間福祉学科・SWnet(聖学院ウェルフェアネット—卒業生を中心とする福祉のネットワーク) 共催

※初めての参加、同僚の方との参加 歓迎いたします。

☆スーパービジョンセンターは、以下のプログラムをおこなっています。

プログラム名	内容	日時	会場	費用
個別スーパービジョン	個別の課題に応じたスーパービジョンを行います *毎月1回程度/1回1.5h程度	スーパーバイザーとスーパーバイザーの日程調整によって決定します		1回 6,000円 *本学卒業生は1回 2,000円
グループ・スーパービジョン	10名前後の固定グループで、実践現場のかかわりについて、事例を提供しあいます(5月から開始) *月1回平日夜/年10回/1回2h	毎年5月～3月 毎月1回/全10回 聖学院大学4号館 原則、第二金曜日		年間 30,000円 *本学卒業生および前年度からの継続者は、20,000円
スーパーバイザー支援制度	後輩や部下に指導を行う立場にある方や実践現場でスーパービジョンを行っている方を支援します*1回1.5h程度	スーパーバイザーとの日程調整によって決定します		1回 8,000円 *本学卒業生は1回 5,000円

◇お問合せ

聖学院大学総合研究所 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL:048-725-5524 HP:<https://www.seigresearch.jp/>